

市民生活部国保課

(現 健康子ども部健康支援課 課長)

課長
吉田
陽輔



座右の銘

「できないと言わない、できる方法をみんなで考える。」

経歴

1994.4	採用(総務部付) (土)道路課	2008.4	都市建設部緑地公園課施設係 主査
1998.4	(都建)道路建設課	2009.4	総合政策部秘書広報課 主査
2000.4	都市建設部区画整理事務所 沼ノ端鉄北地区 技師	2011.4	総合政策部まちなか再生主幹 付 主査
2003.4	北海道派遣 技師	2013.4	総合政策部まちづくり推進課 主査
2004.4	都市建設部区画整理事務所 沼ノ端鉄北地区 技師	2014.4	市民生活部国保課給付係 係長
2007.5	都市建設部緑地公園課施設係 技師	2015.4	市民生活部国保課 課長補佐
2007.7	都市建設部緑地公園課施設係 主任技師	2016.4	市民生活部国保課 課長
		2019.4	健康子ども部健康支援課 課長

業務内容について

国民健康保険や国民年金といった社会保障制度を運用する業務を担当しています。日本では当たり前のように保険証を使い、希望する時に希望した医療機関を受診できますが、こんなに使い勝手の良い医療保険は世界でも珍しいことです。医療保険や年金は、制度を通した世代間仕送りでもあり、「若い人が高齢の人を支える。」「所得の高い人が低い人を支える。」「健康な人が病気の人を支える。」という支えあいでも成り立っている素晴らしい制度ですので、今後の世代にも引き継いでいけるよう安定的な運用に努めています。

仕事・私生活の両立について

あまり両立することを意識はしていませんが、仕事も家庭も一番大事で、状況に応じて優先順位が変わるものだと思います。

休日にはジムで体を動かしたり、激安の宿や旅行プランなどがあれば、家族で旅に出かけるのも好きです。

余暇を楽しむために仕事があり、仕事を充実させるために余暇があるので、どちらも一杯楽しめるように、心がけています。



イクボスとして心掛けていること

個人的には「イクボス」や「イクメン」という言葉は必要ないと思っているのですが…（笑）というのは、子育てする女性を「イクジョ」とか「イクママ」とか言わないのと同じで、そんな言葉がなくても上司は子育てを応援し、夫は子育てをするべきと考えているからです。

子育ては特定の人役目ではありませんので、子供に緊急事態が発生した時は、夫婦で早く対応できる方が動くべきですし、それを支える職場であるべきです。仕事は変わっても親の変わりはできませんから、子供に何かあれば「仕事は変わるから、行ってあげな！」と言える職場でありたいと考えています。



後輩へのメッセージ

いまは公務員人気も下火になり、公務員や行政に何か問題があればすぐに情報が拡散する時代でもあります。何かと負のイメージがある職業ですが、なくてはならない職業であり、市民のためには必要な組織でもあります。

市役所の仕事は、法律や条例・規則などに基づいて行われることが多く、企画や自由な発想ができなくて、つまらないと感じたり、考えたりしているかたもいると思います。

上司から言われる目標は「ノルマ」ですが、自分で立てた目的・目標は「やりがい」になりますので「市民のためになるか。」の目線で、工夫しながら自分なりの「やりがい」を見つけましょう！

福祉部障がい福祉課

(現 福祉部 次長)

課長
山田
隆子



座右の銘
「一生懸命」

経 歴

- | | | | |
|---------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1983.4 | 採用(総務部付) | 2005.5 | 保健福祉部医療助成課
老人医療係 主任主事 |
| 1983.8 | 社会教育部図書館 | 2009.4 | 保健福祉部生活支援第1課
保護第1係 主査 |
| 1985.10 | 研修厚生課 | 2012.4 | 保健福祉部生活支援第1課
副主幹 |
| 1991.6 | 保健衛生課 | 2013.4 | 市民生活部高齢者医療課
課長 |
| 1995.6 | 環境衛生部自然保護課 | 2015.4 | 福祉部障がい福祉課 課長 |
| 1997.4 | 福祉事務所社会福祉課 | 2019.4 | 福祉部 次長 |
| 1998.4 | 保健福祉部社会福祉課
主事 | | |
| 2000.1 | 保健福祉部社会福祉課
障害福祉係 主任主事 | | |
| 2001.4 | 財政部市民税課諸税係
主任主事 | | |

業務内容について

福祉部障がい福祉課では、障害者手帳の交付や障害者福祉サービスの利用、重度心身障害者医療助成の申請などの受付及びその事務を担っています。また、福祉職として採用された社会福祉士、精神保健福祉士などの有資格者がおりますので、基幹相談支援センターとして障がいのある方やご家族からの様々な相談に対応しています。当市には、水を使わないバイオトイレを搭載した福祉トイレカー「とまレット」を運用しており、胆振東部地震の際には厚真町に災害出動しました。平成30年10月には鳥取県と協定を結び、障がいの特性を知り、ちょっとした手助けや配慮を実践する「あいサポート運動」を展開しています。

仕事・私生活の両立について

家では愛犬とゴロゴロしています。根は出不精ですが、年に数回東京へ行きます。上野の国立博物館が好きで、何度も行っています。娘に連れられ、スノーピーミュージアム・ディズニーシーも行きました。過ごす環境が変わることで気分転換になります。マリンバ奏者の娘の演奏会も楽しみの一つですが、最近は、御朱印帳を携えてのパワースポット巡りが何よりの癒しとなっています。年に1度の〇のコンサートも「明日から仕事がんばろー!」と思える貴重なひと時だったのですが…。

イクボスとして心掛けていること

当課には未就学児のお子さんがいる職員が正規職員14名中5名、育児休業中の職員が1名います。私自身、育児をしながら仕事を続けてきましたが、当時とは時代も変わり、職場環境や働き方なども大きく変わってきています。加えて、妊娠、出産が人それぞれ違うように、家庭環境も様々です。悩みも個々に違います。皆が話してくれるお子さんの成長の話を楽しく聞いています。悩みや心配ごとが聞こえてきたら一緒に考えます。すぐに解決できないこともたくさんありますが、前向きになれるよう応援しています。



後輩へのメッセージ

うまくいかなかったことや失敗は山ほどありますが、たくさんの人にお世話になり、教えていただきながら仕事を続けてきました。良いことも良くないことも何でも話せる友人や、アドバイスをしてくれる先輩に励まされてきました。家族からの理解、協力もありました。市職員として働くことは、市民の皆様をはじめ、関係団体や民間企業の方と関わる場面で多くの方々と出会うことができます。お叱りを受けることもありますが、協力や応援をいただいた時には本当にうれしく思います。人事異動があるのでその都度人脈が広がります。目には見えませんが、人と人とのつながりがいつも心の支えになっています。